



地球の力で未来へ挑む
INPEX
CORPORATE PROFILE 2025

目の前に立ちはだかる世界規模の課題。

私たちは地球の力でエネルギーを創る、

チームの力を結集する、経験と新しい発想で知恵を

出し合う。絶対に使命を投げ出したりしない。

私たちはエネルギーを探し、届け続ける。

今日も明日もこれからも、ずっと。

地球の力で 未来へ挑む

INPEX

Energy for a brighter future

経営理念

Our Mission

私たちは、エネルギーの開発・生産・供給を、
持続可能な形で実現することを通じて、
より豊かな社会づくりに貢献します。

CONTENTS

ブランドステートメント・経営理念	P01
INPEX Vision 2035	P03
2025-2027 中期経営計画	
既存プロジェクトの安全／安定操業へ向けた取組み	P05
成長軸1 天然ガス／LNG事業の拡大へ向けた取組み	P08
成長軸2 低炭素化ソリューションの取組み	P09
成長軸3 エネルギー・資源分野での新たな取組み	P10
プロジェクト紹介	P11
国内プロジェクト	P17
サステナビリティ推進の取組み	P19
石油や天然ガスが届くまで	P21
沿革、連結業績、生産量・埋蔵量データ	P25
会社概要、国内主要拠点、グループ海外オフィス	P26

2035年に向けて INPEX が実現していくこと

成長の源泉である既存プロジェクトを一層強化します

安全・安定操業を最優先し、エネルギーの安定供給と同時に、株主還元・成長投資の原資を確保します。

将来の飛躍を現実のものにしていきます

「現実的な移行期の燃料」としての天然ガスの供給力強化を軸に、相乗効果／補完効果が期待できる低炭素分野や電力関連の新たな取組みを強化し、収益基盤を拡大すると同時に2050年ネットゼロに向けて前進します。

コアエリアを中心に事業基盤を拡大し、業績の成長にあわせて株主還元を拡大していきます。

既存プロジェクトの安全・安定操業

成長軸
1

天然ガス／LNG事業の拡大

イクシスLNGプロジェクトでは、安全・安定操業を継続した上で、液化能力拡張を目指します。アバディLNGプロジェクトでは、30年代初頭の生産開始を目標に中計期間中のFID^{※1}を目指します。LNGトレーディング機能を強化し、より柔軟なLNG供給を実現します。早期マネタイズが可能な有望地域で探鉱を継続します。

成長軸
2

CCS／水素をコアとした低炭素化ソリューションの提供

これまでに培った組織能力・既存技術を活かし、エネルギーの低炭素化に取り組めます。当社が参画する天然ガス／LNGプロジェクトとCCSの組み合わせによるGHG排出抑制に加え、第三者向けのGHG削減ソリューションの提供やクリーン水素の供給を推進します。

成長軸
3

INPEX「ならでは」の強みを活かしたエネルギー・資源分野での新たな挑戦

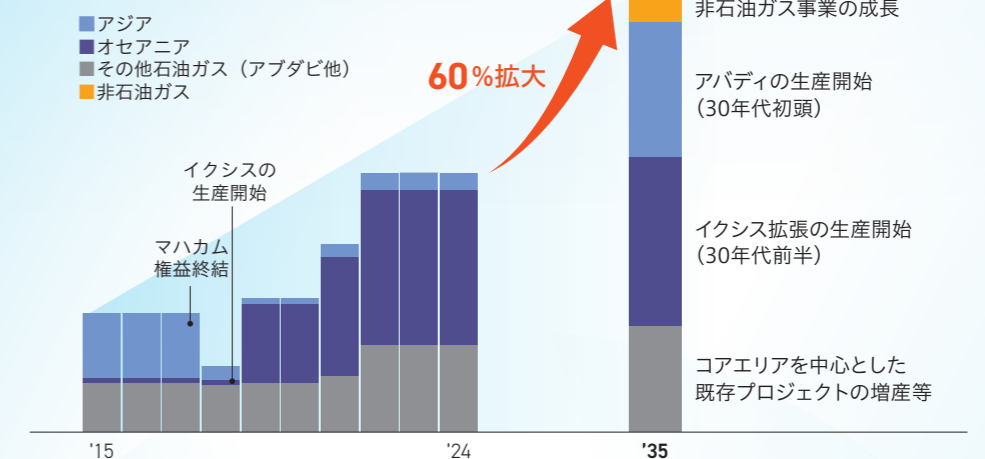
総合エネルギー開発企業として、電力関連分野での事業展開を目指します。再エネに蓄電池やクリーンガス火力発電^{※2}といった調整電源を組み合わせ、クリーンかつ高付加価値な電力供給体制の発展に貢献します。電力供給システムを支えるために必要となる、石油・天然ガス以外の地下資源回収にも挑戦します。

2035年のありたい姿 60-60を目指して

事業規模を60%拡大します

アバディやイクシス拡張といった仕掛中案件を収益性を確保した上で実現することで成長を継続

営業CF成長のイメージ[※]

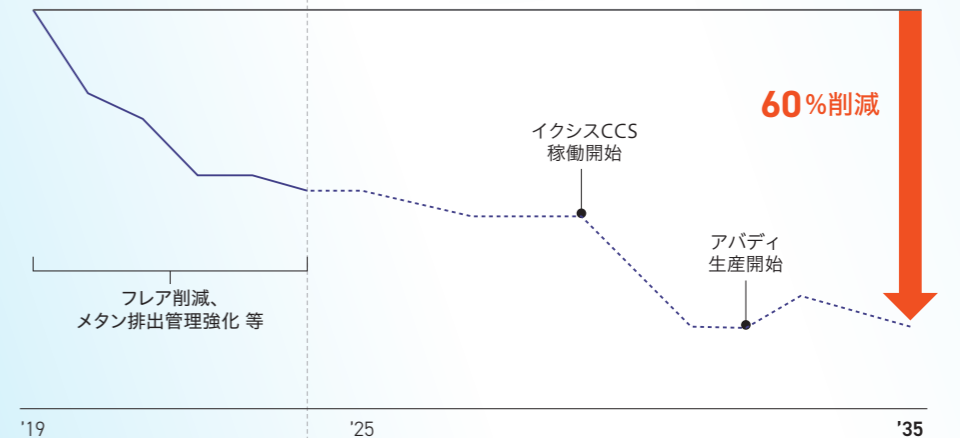


※過去・将来ともに外部事業環境を一定とした場合の概算値（2025年以降はコスト・売上ともに2.3%/年のインフレーションを考慮）

GHG排出原単位を60%削減します^{※1}

CCSを通じてインパクトのある削減を実現すると同時に、社会全体の低炭素化へ貢献^{※2}

GHG排出原単位の見通し



※1 2019年比の削減目標（Scope 1+2。現在の経済環境と合理的な予測を反映したものであり、技術進展、経済合理性、各国・地域の施策実現等の事業環境を前提としている）

※2 2019年時点で操業していたプロジェクトについては絶対量ベースでの排出量削減を目指す。また、サプライチェーン上のステークホルダーと協働しScope 3削減の取組みも並行して進める。加えてCCS、水素、再エネ事業等を通じて、社会に対し820万トン/年程度の削減貢献（製品・サービスを通じて当社が社会のGHG排出削減に貢献した量）創出を目指す

※1 最終投資決定（Final Investment Decision）のこと

※2 CCSと組み合わせることやクリーン水素と混焼／専焼させることでGHGの排出を削減することを目指す

既存プロジェクトの安全／安定操業へ向けた取組み

既存プロジェクトにおいて安全で安定的な操業を継続することを最優先に、加えてコスト削減の努力により収益性の向上に努めます。



イクシス

Ichthys



年間930万トンの安定生産の体制を 中長期的に維持・強化するために必要な条件を整えます

- 定期メンテナンス作業とモニタリング強化を通じ、設備の信頼性を中期的に向上
- 生産操業上のリスク管理の強化による稼働率向上と、操業体制の効率化によるコスト削減の両立
- 長期的に生産量を維持するべく、Cash Mapleに続くガスソース取得や探鉱活動を推進



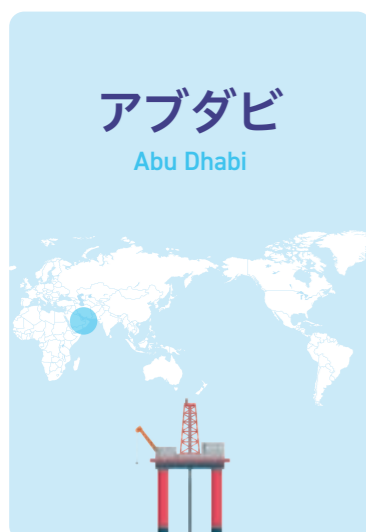
国内

Japan



2024年に新設したINPEX JAPANを通じ、 上下流一体での効率的な事業展開と収益性向上に取り組めます

- 国産天然ガス、輸入LNG、1,500kmのガスパイプラインネットワークの補完関係を活かし、ガスの安定供給を継続
- 国内生産量の維持・拡大に向け、回収率向上のための追加坑井の掘削に加え、有望地域での探鉱を継続



アブダビ

Abu Dhabi



当社アセットのうち最大の生産量を誇る アブダビ産原油の安定供給を継続しつつ、更にクリーン化を進めます

- ADNOC等の事業パートナーと連携し、権益を保有する陸上鉱区および4つの海上油田の安定操業に貢献するとともに、生産能力拡大に向けた開発計画を着実に推進
- 既に非常に低いGHG排出原単位を実現しているものの、海上油田の更なる低炭素化に向けて陸上グリッドからのクリーン電力の活用を推進



東南アジア

Southeast Asia



コアエリアに根を張った事業を継続するとともに、 更なる発展のための機会を追求します

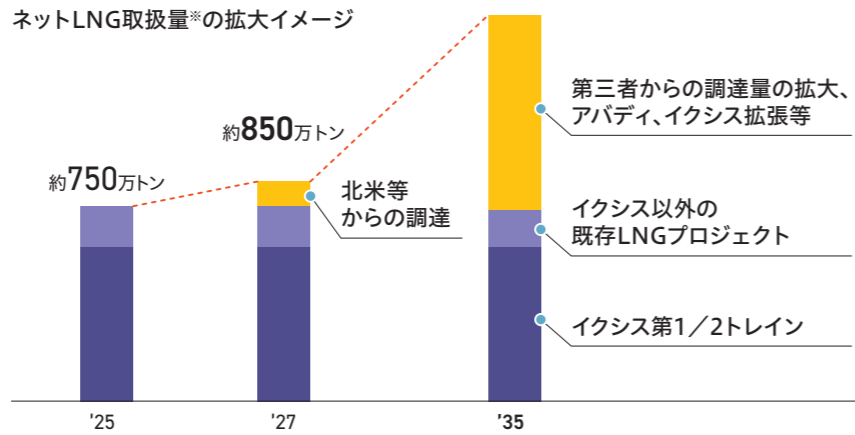
- インドネシアのタングーLNGプロジェクトでは、3トレイン[※]からのLNG安定生産を継続しつつ追加開発を着実に推進
- ベトナムの天然ガス生産プロジェクトでは、追加埋蔵量の確保に向けて未開発油ガス層の追加開発を検討
- マレーシアのサラワク沖において、積極的な探鉱活動を継続しつつM&Aの機会も追求

[※]天然ガスを冷却して液化する設備



ノルウェーを中心に欧州での発展機会を追求すると同時に、中央アジアに位置する既存プロジェクトの安定操業を継続します

- 既存プロジェクトの安定操業を継続するとともに更なる低炭素化（操業用電力の再エネ利用等）を図る（ノルウェー、中央アジア）
- 既発見油ガス田の開発を促進（ノルウェー、Block10）
- 既存事業推進に加えて、探鉱・M&A機会を追求（ノルウェー）



※第三者からの調達数量とJVプロジェクトにおける取扱量の合計。
JVプロジェクトにおける取扱量は、各プロジェクトの生産量×当社の権益比率で算出

プロジェクトからの供給を補完すると同時に、より効率的かつ柔軟にLNGを供給可能にするための能力を強化します

- 当社が参画するプロジェクトから生産されるLNGと第三者から調達したLNGを組み合わせ、ポートフォリオ供給ができる体制を構築
- その一環で、北米等からの調達により2027年までにネットLNG取扱量を現在の約750万トンから約850万トンに拡大

成長軸
1

天然ガス／LNG事業の拡大へ向けた取組み

INPEXは、過去40年以上にわたる経験を活かし、天然ガス／LNG事業をオペレーターとして上流から下流まで一貫通貫で行っている世界でも数少ない会社の一つです。2035年に向けた次の成長の柱として、アバディLNGプロジェクトとイクシス拡張プロジェクトの実現を目指します。

イクシス

需要増加が見込まれるアジア地域へのアクセスに優れた豪州からのLNG供給を、よりクリーンなかたちで拡大することを目指します。

更なる低炭素化に向けて、CCSを実装します

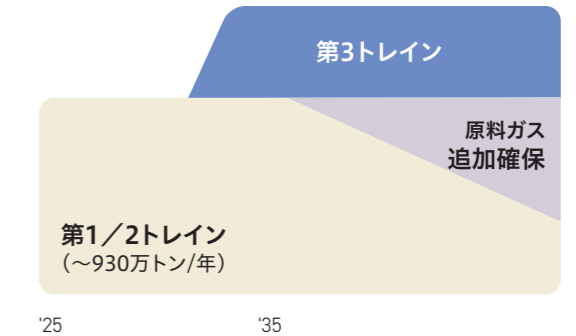
- イクシスCCSプロジェクトの準備を着実に進展、中計期間中のFIDを目指す
- 2030年頃から年間200万トン*のGHGを削減
- 第三者のCO₂圧入によるCCSの商業化（CCSハブ化）の検討も並行して進める

2030年代のLNG生産能力の拡大に向けた準備を進めます

- 拡張プラント用のガスソースとなり得る天然ガス権益を確保
- 2030年代前半の生産開始を目標に第3トレインの開発準備を進める

※当社権益分

イクシスのLNG生産能力イメージ



アバディ

収益性を確保した上で、中計期間中のFID（最終投資決定）を目指します。

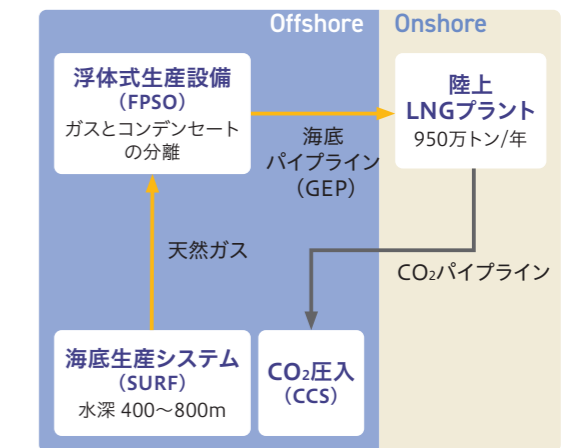
2025年にFEED*1（基本設計）を開始し、FIDに向けた各種準備を着実に前進させます

- イクシスで得た知見をアバディの計画・設計に最大限反映し、プロジェクトの信頼性向上を図る
- 資金調達の最適化
- 長期契約をベースとした販売先の確保

2027年中のFIDを目指します

- 10%台半ばのIRRを確保
- FID後は速やかにEPC*2を開始し、2030年代初頭の生産開始を目指す
- 第三者のCO₂圧入によるCCSの商業化（CCSハブ化）の検討も並行して進める

開発コンセプト



*1 "Front End Engineering Design"の略。Feasibility Study（実現可能性調査と概念設計）の後に行われる基本設計のこと
*2 "Engineering, Procurement, and Construction"の略。FIDの後に行われる詳細設計・調達・建設のこと

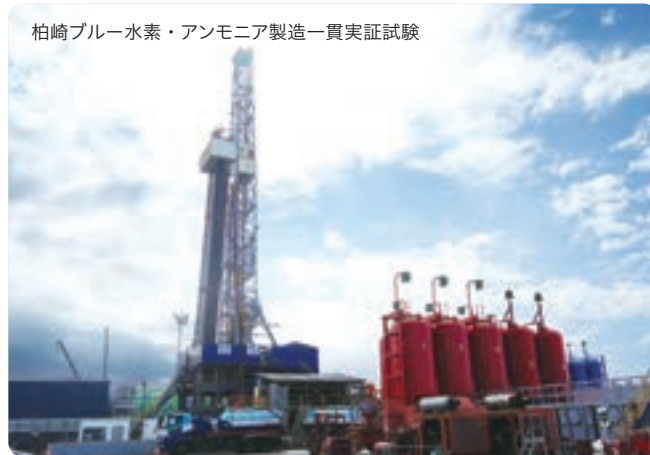
成長軸
2

低炭素化ソリューションの取組み

CCSを通じ、インパクトのあるGHG削減を目指します。
更には、第三者に対してもCCS/水素をコアとしたGHG削減ソリューションを提供し新たな収益源とすることを目指します。

国内での実証試験の推進を通じて ノウハウ獲得を目指します

- 柏崎ブルー水素・アンモニア製造一貫実証試験、および長岡メタネーション技術開発事業を推進



柏崎ブルー水素・アンモニア製造一貫実証試験

参画中のLNGプロジェクトにおいて CCSを実装します

- 30年代に自社GHG排出量のインパクトのある削減を実現することを目指し、各プロジェクトで準備作業を進める
- 将来的には第三者のCO₂の圧入・貯蔵を通じCCSの商業化を目指す



国内で先進的CCS事業を推進します

- 詳細設計、CO₂貯留予定地の評価作業を実施



国内外でクリーン水素/アンモニア供給の事業化を目指します

- 実証試験や各CCSプロジェクトの準備作業を通じて得られた知見を最大限活用
- 国内外の政府支援の活用と並行して、各種準備作業やオフテイカーとの協議を進める

成長軸
3

エネルギー・資源分野での新たな取組み

INPEX「ならでは」の強みを活かせるかたちで
電力事業とその周辺分野での事業展開の拡大にチャレンジします。

電力を可能な限り クリーンなかたちで供給します

- ガス/LNGの燃料供給と一体、かつクリーンなかたちでガス火力発電の事業機会を追求
- 再エネに蓄電池等の調整電源を組み合わせ最適化することで、高付加価値化/高収益化した案件に厳選して投資
- 調整電源の保有に加え、エネルギーマネジメントシステムの運用ノウハウの蓄積に取り組む

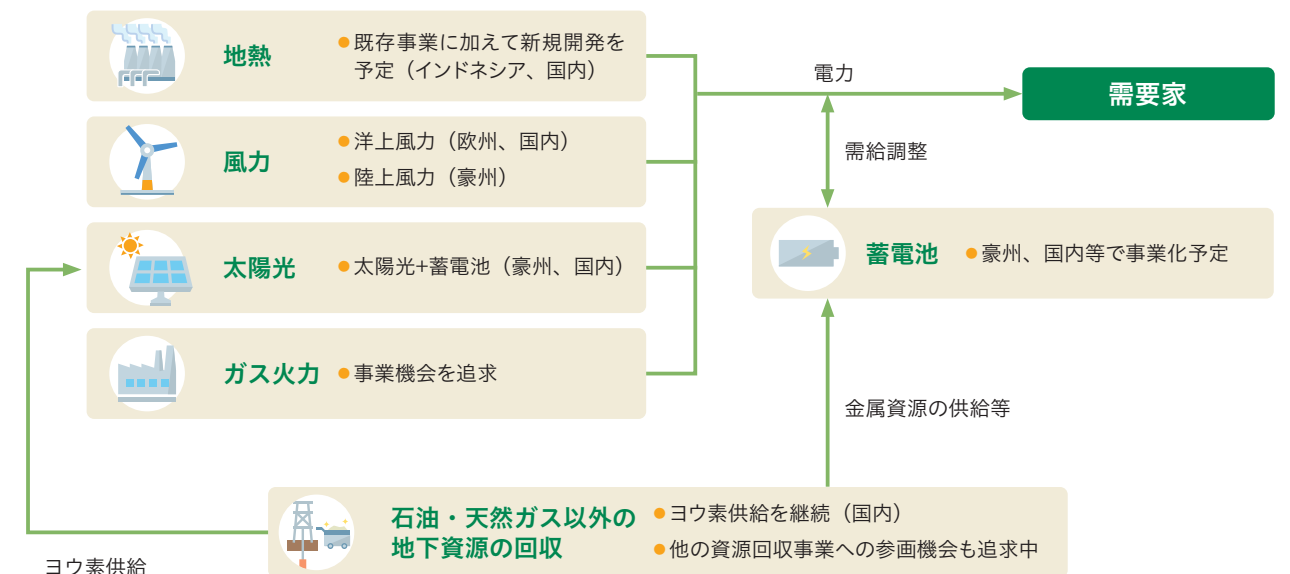


コフナ太陽光発電事業

石油・天然ガス以外の地下資源回収に挑戦します

- 国内ガス田からの副産物であるヨウ素の供給を通じペロブスカイト型の太陽電池の普及を側面支援
- ヨウ素以外の、かん水や地下流体からの資源回収ビジネスに挑戦

データセンター等の電力多消費産業に対し、 供給エネルギーの効率化・クリーン化の機会を提供します



より低炭素なエネルギーの安定的な供給と、
持続可能で地球環境に配慮した
「責任あるエネルギー・トランジション」を目指して



INPEXは、今この瞬間も
世界で挑戦を続けています。

1-イクシスLNGプロジェクト WA-50-L鉱区/WA-51-L鉱区 オーストラリア

当社は、1998年に本プロジェクトが位置する鉱区の探鉱権を取得し、探鉱・評価作業や基本設計作業などの開発準備作業を経て、2012年1月に最終投資決定をしました。生産に必要な施設の建設作業や試運転作業を経て、2018年7月に生産を開始し、順次コンデンセート、液化天然ガス(LNG)、液化石油ガス(LPG)各製品の出荷を開始しました。2018年の生産開始以来、安定生産を継続しています。本プロジェクトでは、年産840万トン分の売買契約を締結済み、LNG生産能力を更に引き上げ、年間930万トンの生産を行うための体制の構築が完了しており、今後も安全・安定生産体制の維持・強化、エネルギーの安定供給に努めていきます。



オペレーター
権益比率
67.82%

2-アバディ陸上鉱区 アラブ首長国連邦

当社は、アラブ首長国連邦アバディ陸上のADCO鉱区に係る入札に参加の上、2015年4月に同鉱区の5%の参加権益を取得し、2015年1月1日からの40年を契約期間とする利権契約を同国政府およびアバディ国営石油会社(ADNOC)と締結しました。同鉱区内には、世界でも有数の超巨大油田が存在し、現在12油田から安定的に原油生産が行われています。現在の日量200万バレルの生産能力を更に増強する計画を検討しています。



3-アバディ海上油田 アラブ首長国連邦

当社は、1973年からアバディ首長国沖合にて、海上油田の開発・生産事業に参画し、現在では世界有数の規模を誇る上部ザクム油田をはじめ、下部ザクム油田、サター油田、ウムアダルク油田の4つの海上油田事業を推進しています。2014年1月に上部ザクム油田の権益期限を15年延長し、加えて2017年11月には、日量100万バレルまで増産する計画に合意し、権益期限を更に10年延長しました。2018年2月には、下部ザクム油田の利権を取得し、これまで保有していたサター油田、ウムアダルク油田の利権も25年延長しました。上部ザクム油田、サター油田およびウムアダルク油田の生産原油は、ジルク島へ送られアッパーザクム原油として出荷されています。下部ザクム油田の生産原油は、ダス島へ送られダス原油として出荷されています。当社は、下部ザクム油田において、ADNOCよりアセットリーダーに任命され、原油生産能力を日量45万バレルに引き上げるべく、ADNOCおよびパートナー各社と密接に連携し、主導的な立場で開発作業を進めています。



4-アバディLNGプロジェクト マセラ鉱区 インドネシア

当社は、1998年11月に公開入札によりインドネシア領アララフ海に位置するマセラ鉱区の100%権益を取得し、2000年に掘削した試掘第1号井によりアバディガス田を発見しました。そして、2019年7月には年産950万トン規模のLNG生産を想定する改定開発計画がインドネシア政府当局に承認され、併せてマセラ鉱区のPSC^{※1}期限も2055年まで延長されました。2023年にはプルタミナおよびペトロナスが新パートナーとしてプロジェクトに参画し、CCSを新たに追加した再改定開発計画が承認されました。今後はFEED^{※2}をはじめマーケティング、ファイナンスなど必要な開発準備作業を進めていきます。

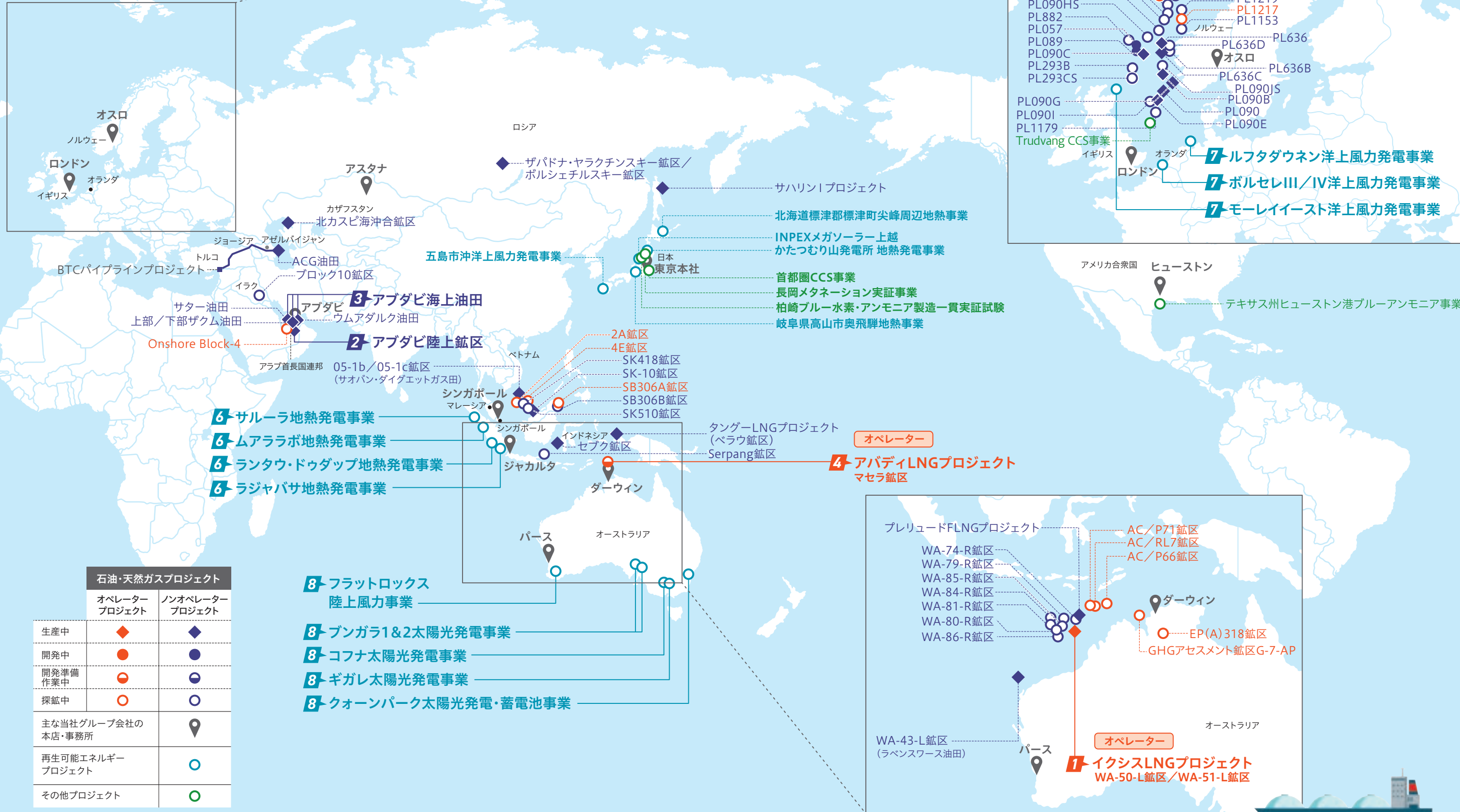


オペレーター
権益比率
65%

※1 Production Sharing Contract; 生産分と契約 ※2 Front End Engineering Design; 詳細設計

主なプロジェクト紹介

豪州、アバディ、東南アジア、日本、欧州の5つのコアエリアを中心に、世界中でプロジェクトを推進



5-ノルウェープロジェクト

当社は、2022年1月に、出光興産株式会社および大阪ガスミットリソーシズ株式会社より、両社が保有する出光スノーレ石油開発株式会社(新商号:株式会社INPEXノルウェー)の株式50.5%を取得しました。INPEXノルウェーは、同社の100%子会社であるINPEX Idemitsu Norge AS(ノルウェー法人)を通じて、スノーレプロジェクトをはじめとする8の生産中の油ガス田権益のほか、複数の有望な既発見未開発油ガス田と探鉱鉱区を保有しており、当社上流事業のポートフォリオの最適化に資するものと考えております。中核アセットであるスノーレプロジェクトでは、CO₂排出量の削減のため、同プロジェクトの生産操作に必要な電力の一部を浮体式洋上風力発電設備より賅っています。



5-ノルウェープロジェクト PL057/PL089等 ノルウェー

当社は、2022年1月に、出光興産株式会社および大阪ガスミットリソーシズ株式会社より、両社が保有する出光スノーレ石油開発株式会社(新商号:株式会社INPEXノルウェー)の株式50.5%を取得しました。INPEXノルウェーは、同社の100%子会社であるINPEX Idemitsu Norge AS(ノルウェー法人)を通じて、スノーレプロジェクトをはじめとする8の生産中の油ガス田権益のほか、複数の有望な既発見未開発油ガス田と探鉱鉱区を保有しており、当社上流事業のポートフォリオの最適化に資するものと考えております。中核アセットであるスノーレプロジェクトでは、CO₂排出量の削減のため、同プロジェクトの生産操作に必要な電力の一部を浮体式洋上風力発電設備より賅っています。



©Equinor

6-インドネシアにおける地熱発電事業 インドネシア

インドネシア共和国スマトラ島における4つの地熱発電事業(ムアララボ、ランタウ・ドゥグダブ、サルーラ、ラジャバサ)に参画しており、このうちムアララボ地熱発電事業、ランタウ・ドゥグダブ地熱発電事業、サルーラ地熱発電事業は商業運転中です。3つの操業中の地熱発電事業の発電容量の合計は約513MWです。また、ムアララボについては拡張開発の投資を決定し、既設発電所と同規模(約85MW)の発電所が2027年に操業開始予定です。



7-欧州における洋上風力発電事業 オランダ イギリス

オランダ沖合にて操業中のルフタダウネン洋上風力発電所(3MW×43基)、およびボルセレIII/IV洋上風力発電所(9.5MW×77基)における発電事業に参画しております。また英国スコットランド沖合においても、操業中の950MW(9.5MW×100基)の出力規模のモーレイイースト洋上風力発電所に事業参画しております。3つの欧州における操業中の洋上風力発電事業の発電容量の合計は約1,810MWです。



8-豪州における再生エネ事業 オーストラリア

当社は、イタリア大手電力・エネルギー会社 Enel S.p.Aの子会社で、世界最大級の再生可能エネルギー会社である Enel Green Power S.p.A(EGP)より、豪州法人 Potentia Energy Pty. Ltd[®]の50%株式を取得し、オーストラリアにおけるバリューチェーン型の電気事業に参画しています。今後当社が保有する既存ポートフォリオの運営に携わるとともに、更なる発電容量の拡大を目標として収益性の高い優良な新規発電アセットの選別と開発を進めていきます。



※Enel Green Power Australia Pty. Ltd (EGPA) は2024年12月9日を以てPotentia Energy Pty. Ltdに社名変更

国内プロジェクト



国内や海外で生産した天然ガスを安全かつ確実にお届けします。

当社の国内における天然ガス事業等は、(株) INPEX JAPANを通じて行っております。1950年代から天然ガスの探鉱・開発・生産活動を開始し、1984年から日本最大級の南長岡ガス田（新潟県長岡市）の生産を続けています。2013年にはLNGの受け入れ基地である直江津LNG基地（新潟県上越市）が稼働し、本基地で受け入れたLNGは気化した後、南長岡ガス田にて生産した天然ガスと合わせて、関東甲信越から北陸にかけて広がる総延長約1,500kmの天然ガスパイプラインネットワークを通じて都市ガス事業者および工業用需要家へ供給しています。更に2018年10月には、当社がオーストラリアにて生産・操業を行うイクシスLNGプロジェクトから初めて出荷したLNGを、直江津LNG基地にて受け入れ開始。当社の国内における天然ガス供給能力および安定供給体制が一層強化され、海外のガス供給源と国内ガス市場とを結ぶグローバルガスバリューチェーンの一翼を担っています。



越路原プラント

南長岡ガス田 越路原／親沢プラント 新潟県

当社は1979年に南長岡ガス田を発見しました。国産エネルギーとしての大きな期待を担い、1984年に越路原プラント（現処理能力：420万Nm³/日）が稼働し、ガス生産を開始しました。1994年からは親沢プラント（現処理能力：166万Nm³/日）も稼働しています。



直江津LNG基地 新潟県

当社の天然ガスパイプラインネットワークの要衝に位置する新潟県上越市の直江津港において、2013年に直江津LNG基地（18万klタンク×2基）の操業を開始しました。同基地ではLNGを気化、熱量調整して需要家の皆さまの元へ送り出しており、2018年10月より、イクシスLNGプロジェクトからLNGの受け入れを開始しました（現最大製造能力：825万Nm³/日）。



成東ガス田 千葉県

国内最大の水溶性ガス田である南関東ガス田は、千葉県を中心とした関東地区南部に分布しています。当社は1960年に同県で成東ガス田を発見し、採取したガスを周辺に供給するとともに、副産物のヨウ素も販売しています。



八橋油田 秋田県

秋田平野を流れる雄物川流域一帯では、大正時代から油やガスの探鉱活動が盛んであり、日本最大級の油田である八橋油田において、当社は探鉱・開発技術の向上を図りながら開発・生産を進め、現在も生産中です。



発電事業 新潟県

南長岡ガス田で生産した天然ガスを燃料として、出力約5万5千kWの高効率ガスタービンコンバインドサイクル火力発電による発電事業を2007年から行っています。発電した電気は小売電気事業者へ売電しています。



天然ガスパイプライン 運転保守

天然ガスを安定的に供給するため、24時間体制で当社天然ガスパイプライン網を監視しています。また、パイプラインルートのパトロール・ガス漏えい検査など、施設の保守点検により安全な輸送を実現しています。

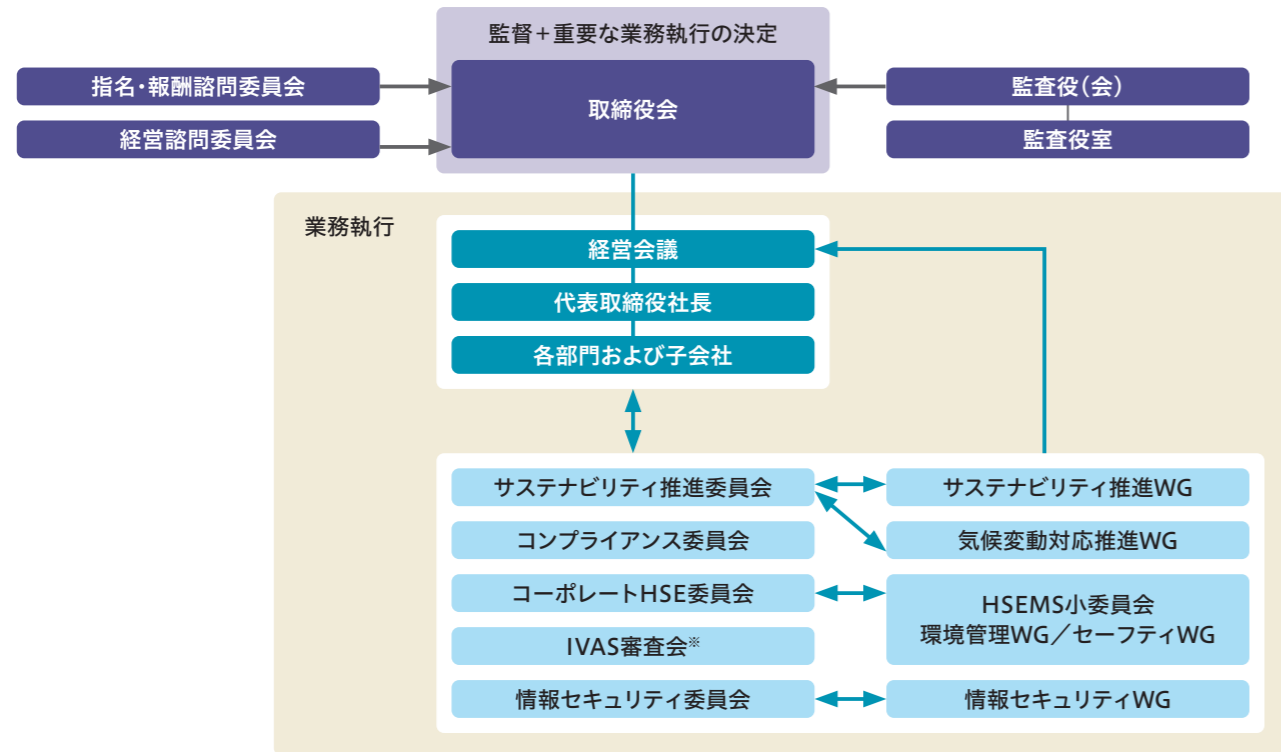
天然ガスパイプラインネットワーク



サステナビリティ推進の取組み

当社グループは社会的責任を果たし、社会の持続可能な発展に貢献する取組みを推進することを目的として、2012年4月よりサステナビリティ推進委員会（旧CSR委員会）を設置しています。本委員会は代表取締役社長を委員長とし、代表取締役、総務本部長、経営企画本部長、コンプライアンス委員会委員長、コーポレートHSE委員会委員長から構成され、サステナビリティに関する基本方針、同推進に関する重要事項等を審議します。また、サステナビリティ推進委員会の下部組織として、各本部の実務者レベルで構成するサステナビリティ推進ワーキンググループ並びに気候変動対応推進ワーキンググループを設置し、全社横断的な協議推進体制を整備しています。当社のサステナビリティ推進のためのガバナンス体制図は次のとおりです。

サステナビリティ推進体制図



※INPEX Value Assurance System:プロジェクトの価値向上および推進に関する当社の意思決定に資することを目的とした審査会

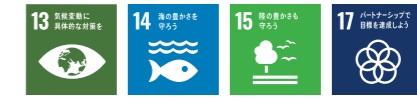
当社事業を通じて貢献する代表的なSDGs



オーストラリアにおける生物多様性の保全活動

オーストラリア

イクシスLNGプロジェクトが立地する豪州北部海域には、マングローブ林が形成されており、魚類の繁殖エリアやウミガメの採餌エリアとなっています。この豊かな生物多様性を保全するため、排水水質、海水水質、マングローブの生育状況、自然植生などの包括的なモニタリングを実施、また、希少海洋生物の保護管理活動への支援等を行っています。



日本におけるアマモ場再生プロジェクト

日本

東京湾UMIプロジェクトは、森に木を植えるように東京湾にアマモ場を再生させることで生物多様性の確保を図り、その活動を通して、海への理解や関心を高めることを目指した取り組みです。当社従業員をはじめ地元の企業も参加し、環境保全の機会を提供しています。



アブダビでのteamLab Phenomena Abu Dhabiへの協賛

アラブ首長国連邦

アラブ首長国連邦アブダビ首長国文化観光局と、「Environmental Phenomena」（環境現象）をテーマにした大規模なアートプロジェクト「teamLab Phenomena Abu Dhabi」への協賛契約を締結しています。

10年間の協賛期間中にUAEの青少年を招待し、彼らの好奇心やイマジネーションを刺激することにより、次世代の育成に貢献していきます。



©DCT Abu Dhabi



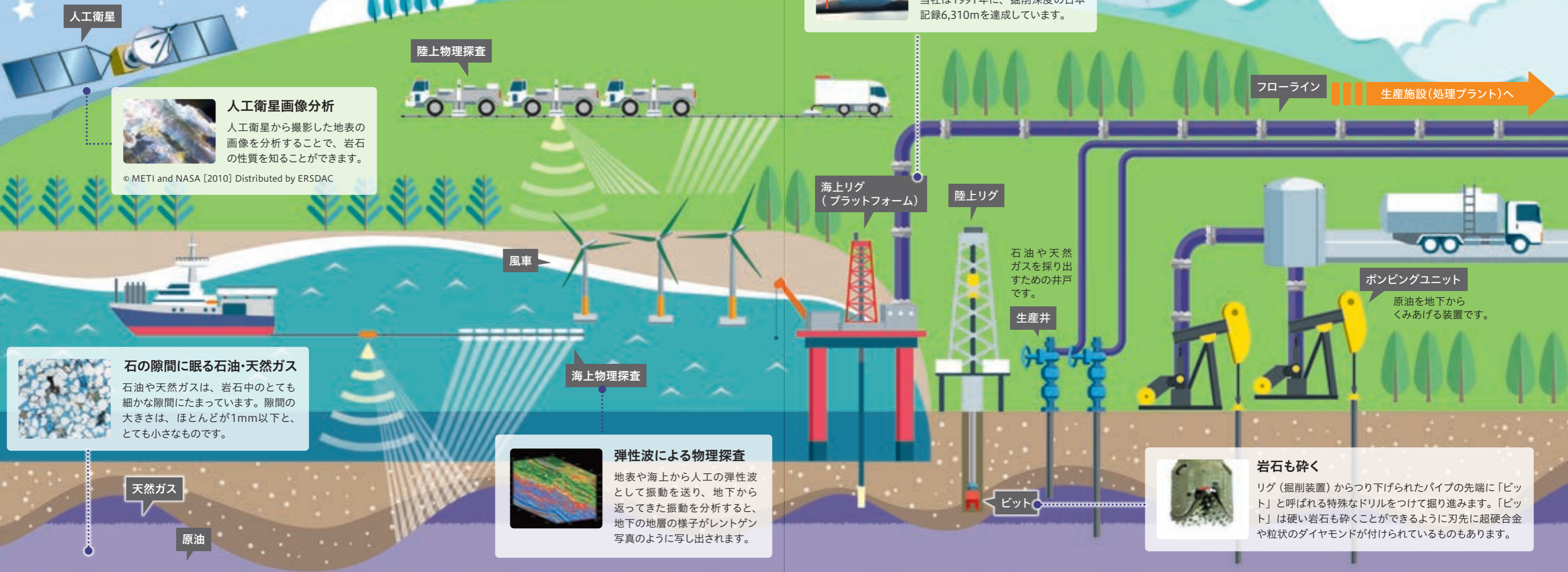
インドネシアにおける地域コミュニティ強化支援

インドネシア

INPEXは、知識の伝承と能力開発を通じて地元コミュニティを強化する支援を提供しています。スキル向上を目的としたワークショップの開催などの活動を通して、地域コミュニティへポジティブな影響を与えることを目的としています。主要な取り組みの一例としてコミュニティにおける有機農業や漁業の強化に焦点を当てています。



石油や天然ガスが届くまで



掘削深度日本一
 大型リグは、富士山の2倍近い6,000m以上も掘ることができます。当社は1991年に、掘削深度の日本記録6,310mを達成しています。

人工衛星画像分析
 人工衛星から撮影した地表の画像を分析することで、岩石の性質を知ることができます。
 © METI and NASA [2010] Distributed by ERSDAC

石の隙間に眠る石油・天然ガス
 石油や天然ガスは、岩石中のとても細かな隙間にたまっています。隙間の大きさは、ほとんどが1mm以下と、とても小さなものです。

弾性波による物理探査
 地表や海上から人工の弾性波として振動を送り、地下から返ってきた振動を分析すると、地下の地層の様子がレントゲン写真のように写し出されます。

岩石も砕く
 リグ (掘削装置) からつり下げられたパイプの先端に「ビット」と呼ばれる特殊なドリルをつけて掘り進みます。「ビット」は硬い岩石も砕くことができるように刃先に超硬合金や粒状のダイヤモンドが付けられているものもあります。

STEP 1 探す

地下にある石油や天然ガスを、最新の知見や技術を活かして探し出します。



地層を調べる [地質調査]

直接見ることができない地下の地層でもその延長部が地表に露出していることがあります。地質調査では、そのような地層を調査・分析し、石油や天然ガスのもとになった岩石がどこに分布するか、生成された石油や天然ガスがどこに集積しているかを調べます。

振動を与えて探す [物理探査]

地層を構成する岩石の物理的な性質を利用して地下の地質構造を調べます。これが物理探査です。その一つ、弾性波探査は、地表や海上から地下に人工的な振動を送り、地下の岩石にぶつかって地表に戻ってきた振動を分析して、地下の地質構造を調べます。

試しに掘る [試掘井の掘削]

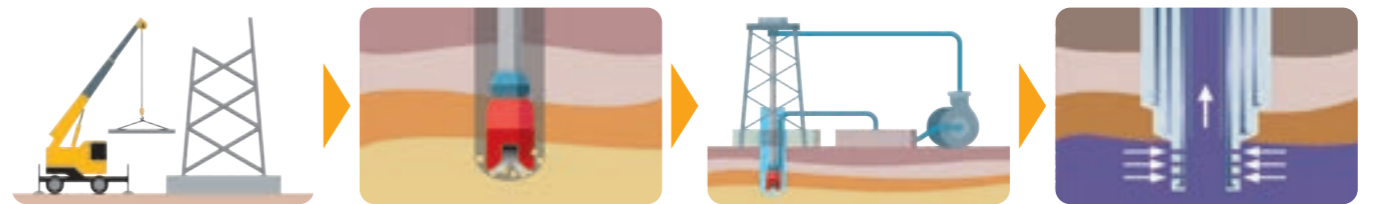
さまざまな調査によって有望とされた鉱区でも、本当に石油や天然ガスがあるかどうかは、実際に井戸を掘って地下の様子を調べてみないと分かりません。どの場所にどれくらいの深さの井戸を掘ればよいかといった詳細な計画を作成し、試し掘りの井戸「試掘井」を掘削します。

発見後の調査分析 [生産テスト]

「試掘井」によって石油や天然ガスが存在する層を発見できても、それらが商業化に見合う量があるかわかりません。そのため、試験的に石油や天然ガスを産出する「生産テスト」を行います。あらゆる面からの検討を重ね、本格的な開発・生産に向かうべきかどうかを判断します。

STEP 2 掘る

地下にある石油や天然ガスを、探し取り出すために、井戸を掘ります。



やぐらを組む [リグの設置]

地下深くに眠る石油や天然ガスを採取するために、井戸を掘るための準備として鉄のパイプを扱う「やぐら」と呼ばれる鉄塔を組む、その他さまざまな機械や装置を設置します。これらをまとめて「リグ (掘削装置)」と呼びます。

ビットで掘る [掘削ビット]

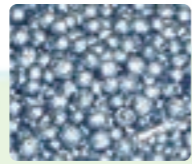
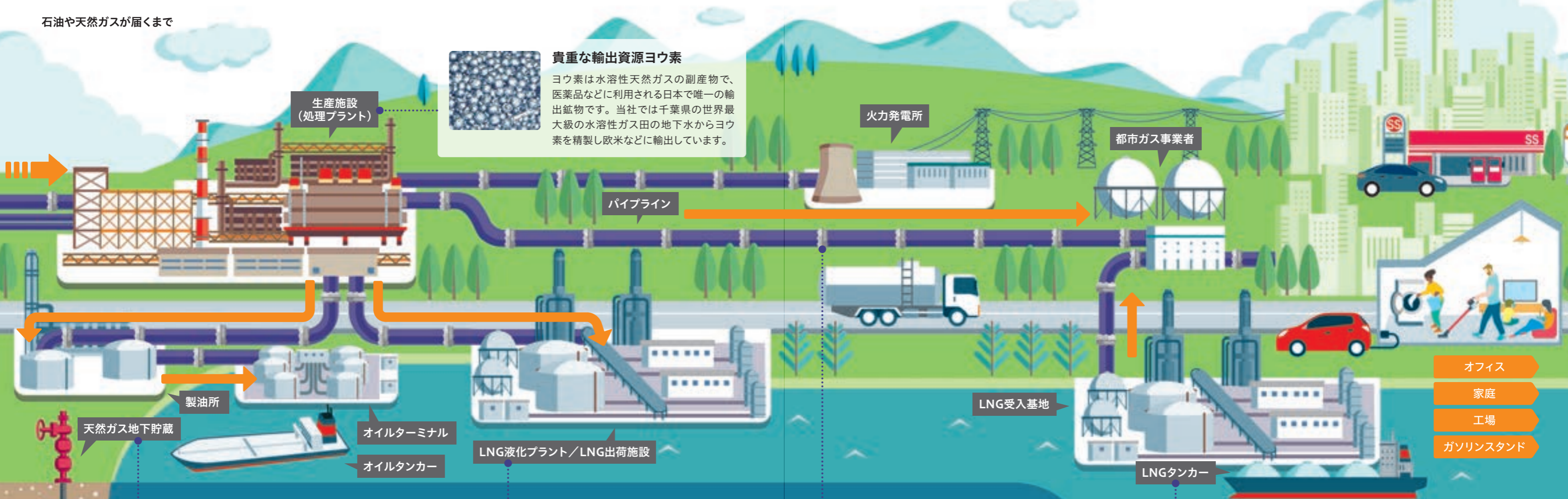
リグから1本約10mのパイプを継ぎ足しながら、地中深くに井戸を掘ります。パイプの先には「ビット」と呼ばれる特殊なドリルを取り付け、ビットの回転とパイプの重さを利用して硬い岩石を削り、地中を掘り進みます。ビットにはさまざまな種類があり、岩石に応じて使い分けられます。

土を取り除きながら掘り進む [泥水循環]

掘削を進めるときに出る土や石などの掘りくずは、「泥水」と呼ばれる粘性のある液体を地上から強力なポンプで流し込み、ビットの先端から勢いよく噴き出させることで地上まで押し上げて運び出します。泥水は、地下のビットやパイプの冷却や、掘った地層の壁の補強という役割も果たします。

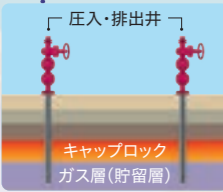
崩れないように補強する [ケーシング]

掘り進めた井戸の壁は、崩れないように「ケーシング」と呼ばれる鉄管を降ろして補強します。区間ごとの穴の大きさに合わせて太いものから細いものへと順に降ろして、掘った地層との間をセメントで固定します。井戸を掘り終えると、目的となる深度でケーシングに穴をあけ、石油や天然ガスを採取します。



貴重な輸出資源ヨウ素

ヨウ素は水溶性天然ガスの副産物で、医薬品などに利用される日本で唯一の輸出鉱物です。当社では千葉県の世界最大級の水溶性ガス田の地下水からヨウ素を精製し欧米などに輸出しています。



自然の貯蔵庫

枯渇した油・ガス田などを利用して地下に天然ガスを貯蔵する技術があります。当社でも、南長岡ガス田近くの関原ガス田を活用し、需要変動に対応しています。



天然ガスを液化したLNG

気体の天然ガスを超低温(約-162℃)まで冷却して液化し、LNG(液化天然ガス)を製造します。LNGにすることで、体積が気体の600分の1に圧縮され、タンカーやタンクローリーなどでの大量輸送が可能になります。



ガスを運ぶ丈夫なパイプ

当社は天然ガス輸送のため、パイプラインを敷設しています。天然ガスを安全に供給するため、敷設するパイプには、十分な強度、優れた耐震性を持たせています。



超低温のLNGを運ぶタンカー

超低温のLNGを安全に輸送するために専用のLNGタンカーが活躍します。低温断熱タンクを船体内に備えており、安全性に考慮した特殊な設計になっています。

STEP 3 作る

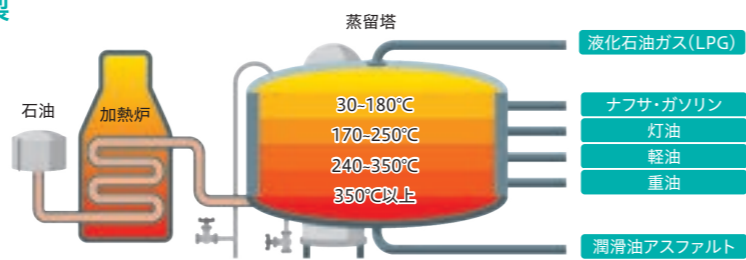
採り出した石油や天然ガスを、製品として利用するために精製・処理します。

探す 掘る 作る 運ぶ

石油

ガス分を分離し不純物を処理した後、精製

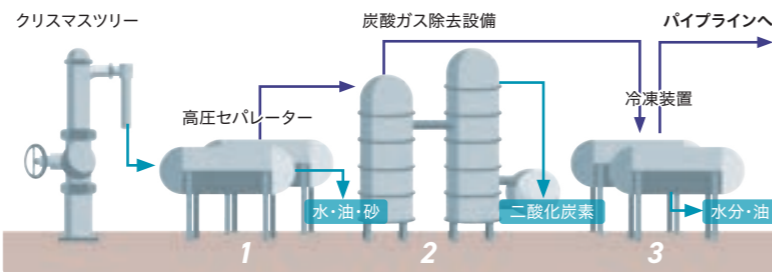
天然ガスから分離された油分にはガスや水銀などが含まれることがあります。そこで、蒸留装置によってガスを分離し吸着剤にて水銀を除去します。処理後の油分はコンデンセートと呼ばれ、製油所などに出荷されLPG・ナフサ(石油化学製品の原料)・ガソリン・灯油・軽油・重油などの石油製品に精製されます。



天然ガス

油分を分離し不純物を処理

採取した天然ガスには、油分や不純物(炭酸ガス・水分・水銀など)が含まれています。そのままでは製品として使用できないため、処理プラントに送り、油分はセパレーターで分離、不純物は炭酸ガス除去装置や冷凍装置、吸着剤で処理して、皆さまが利用できる天然ガスとして送り出します。



STEP 4 運ぶ

精製・処理した石油・天然ガスは、パイプライン、タンカーやタンクローリーで運びます。

探す 掘る 作る 運ぶ

石油製品を運ぶ [海上・陸上輸送]

石油製品を運ぶ際には、海上では専用のタンカーを使い、陸上ではパイプラインやタンクローリー、あるいは貨物列車などを利用します。必要な場所へ安全に届けられることで、工場の燃料や自動車の燃料など、多様な用途に役立てられます。



身近な石油製品 [多用途への供給]

石油製品はさまざまな用途に使用されます。工場や家庭などでは熱源として、自動車・船舶・航空機などでは動力源として使われます。更に、洗剤やプラスチック製品、合成繊維などの原料としても利用されています。



海外から日本へ届ける [LNG輸送]

日本の国内天然ガス生産量は、国内消費量の約4%に不足するため、残りの約96%はインドネシア、オーストラリア、中東地域などからLNGとして輸入しています。当社は、新潟県上越市(直江津港)にLNG受入基地を保有し、ガスを安定的に供給しています。



国内のガスを供給する [パイプライン]

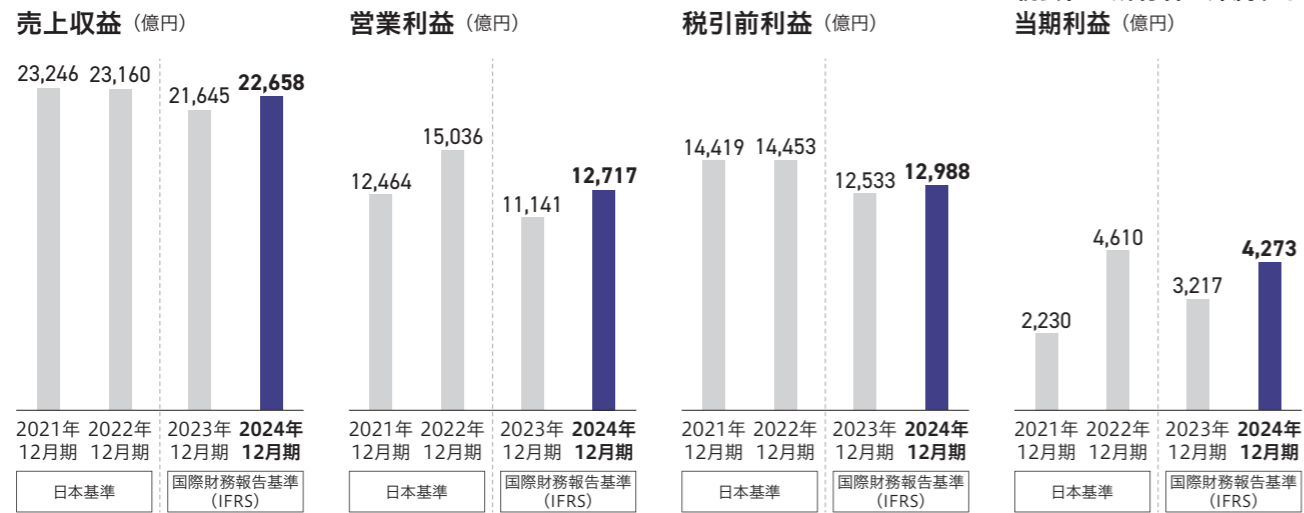
海外から届いたLNGは受入基地で再気化して天然ガスに戻り、国産ガスと混ぜ合わせてパイプラインへ送ります。こうして川を渡り山を越えて運ばれた天然ガスは、都市ガス事業者や工場などで幅広く利用され、私たちの生活を支えています。



沿革

2008年 国際石油開発帝石ホールディングス、国際石油開発、帝国石油が合併し、国際石油開発帝石として発足
 2012年 オーストラリア・イクシスLNGプロジェクト最終投資決定
 2013年 「直江津LNG基地」竣工
 2014年 アラブ首長国連邦・上部ザクム油田権益期限延長
 2015年 アラブ首長国連邦・ADCO鉦区（石油生産プロジェクト）権益取得
 2016年 「富山ライン」供給開始
 カザフスタン・北カスピ海沖合鉦区カシャガン油田から原油出荷開始
 2017年 アゼルバイジャン・カスピ海ACG鉦区権益期限25年延長
 2018年 アラブ首長国連邦・下部ザクム油田の権益取得およびサター・ウムアダルク油田の権益期限延長
 オーストラリア・イクシスLNGプロジェクト生産開始
 オーストラリア・プレリユードFLNGプロジェクト生産開始
 2019年 インドネシア・アバディLNGプロジェクト改定開発計画（POD）承認
 2021年 「今後の事業展開～2050 ネットゼロカーボン社会に向けて～」発表
 国際石油開発帝石株式会社から株式会社INPEXへ社名変更
 ノルウェー領北海 スノーレプロジェクトへの参入
 インドネシア・ムアララボ地熱発電プロジェクトへの参入
 2022年 「長期戦略と中期経営計画（INPEX Vision @2022）」発表
 オランダ・洋上風力発電プロジェクト（ルフタダウネン、ボルセラIII/IV）への参入
 2023年 イギリス・洋上風力発電プロジェクト（モーレイイースト）への参入
 2025年 「INPEX Vision 2035」発表

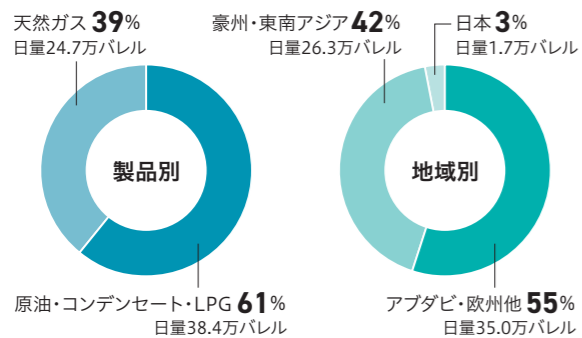
連結業績



生産量・埋蔵量データ

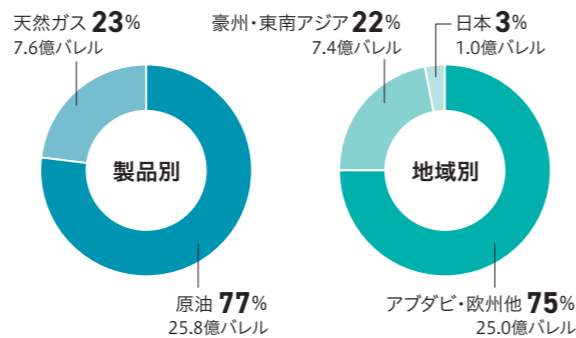
原油換算（2024年12月期）

ネット生産量 日量 **63.1** 万バレル



原油換算（2024年12月期）

確認埋蔵量 **33.4** 億バレル



会社概要

商号 株式会社INPEX
 (英文商号：INPEX CORPORATION)
 本社所在地 〒107-6332
 東京都港区赤坂五丁目3番1号 赤坂Bizタワー
 電話番号 03-5572-0200
 設立 2006（平成18）年4月3日
 代表取締役社長 上田 隆之
 決算期 12月
 資本金 2,908億983万5,000円
 従業員数 3,679名（連結、2024年12月末現在）
 主な事業 ① 石油、天然ガスその他の鉱物資源の調査、探鉱、開発および生産
 ② 地熱、風力、太陽光その他のエネルギー資源の調査、開発および生産
 ③ 前二号に定める資源およびそれらの副産物の精製、加工、貯蔵、売買、受託販売および輸送

国内主要拠点

- 技術本部 リサーチユニット
- イノベーション本部 I-RHEXユニット
 〒157-0061 東京都世田谷区北烏山9-23-30
 TEL:03-3300-5121 FAX:03-3300-5129
- 直江津LNG基地(株式会社INPEX JAPAN)
 〒942-0027 新潟県上越市八千浦12
 TEL:025-545-2196 FAX:025-545-2359
- 東日本鉦業所(株式会社INPEX JAPAN)
 〒950-8512 新潟県新潟市中央区東大通1-3-1
 INPEX新潟ビルディング
 TEL:025-247-2171 FAX:025-247-5390
- 東日本鉦業所 秋田鉦場(株式会社INPEX JAPAN)
 〒010-0977 秋田県秋田市八橋大道東2-1
 TEL:018-862-4131 FAX:018-862-4139
- 東日本鉦業所 千葉鉦場(株式会社INPEX JAPAN)
 〒289-1326 千葉県山武市成東3319
 TEL:0475-82-0830 FAX:0475-82-0836
- 東日本鉦業所 南阿賀鉦場(株式会社INPEX JAPAN)
 〒959-2117 新潟県阿賀野市下黒瀬1175
 TEL:0250-67-2311 FAX:0250-67-2930
- 東日本鉦業所 長岡鉦場(株式会社INPEX JAPAN)
 〒949-5411 新潟県長岡市来迎寺字原2943
 TEL:0258-41-3583 FAX:0258-41-3584

グループ海外オフィス

- ジャカルタ
- パース
- ダーウィン
- シンガポール
- ロンドン
- オスロ
- アスタナ
- アブダビ
- ヒューストン
- クアラルンプール

本社 〒107-6332
 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー
 TEL：03-5572-0200 FAX：03-5572-0205
<https://www.inpex.com>



地球の力で未来へ挑む
INPEX